



# 四日市港外貿コンテナ貨物 流動調査の概要

国土交通省港湾局が平成30年11月の1ヶ月間において実施した  
「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を基に分析を行い、その結果を概要版としてまとめたものです。

四日市港管理組合

# 四日市港利用優位圏

近隣の港湾(名古屋港・大阪港)と比較して四日市港との間の陸上輸送コストが最小となる地域を「四日市港利用優位圏」としました。

その範囲は次の方法により算出しています。

$$\text{陸上輸送コスト} = \text{時間費用} + \text{走行費用} + \text{通行料金}$$

コンテナトレーラーの時間  
あたり運行費用(人件費等) × 運行時間

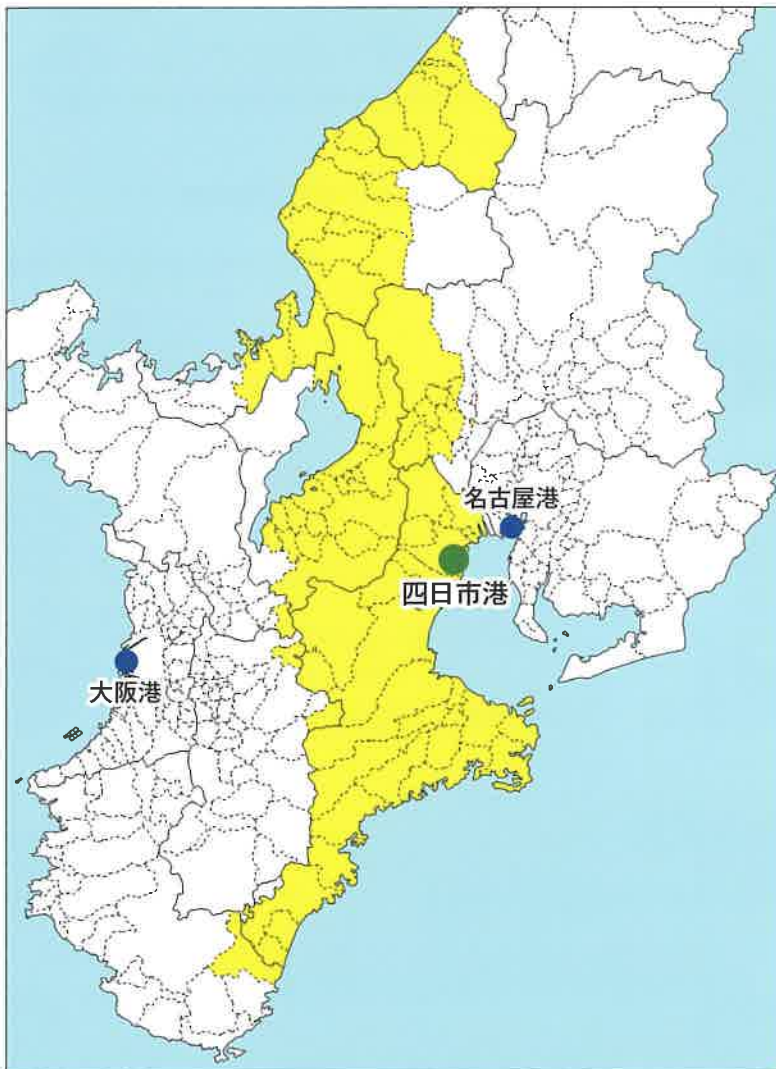
コンテナトレーラーの距離  
あたり走行経費(燃料費等) × 走行距離

特大車の高速料金または  
大型車の都市高速料金

※起点は各市町村役場、終点は四日市港、名古屋港、大阪港の各コンテナターミナルとします。

※走行速度は高速道路80km/h、都市高速道路及び自動車専用道路60km/h、一般道路30km/hとします。

## ■四日市港との間の陸上輸送コストが最小となる市町村 (四日市港利用優位圏)



## ■四日市港利用優位圏の範囲

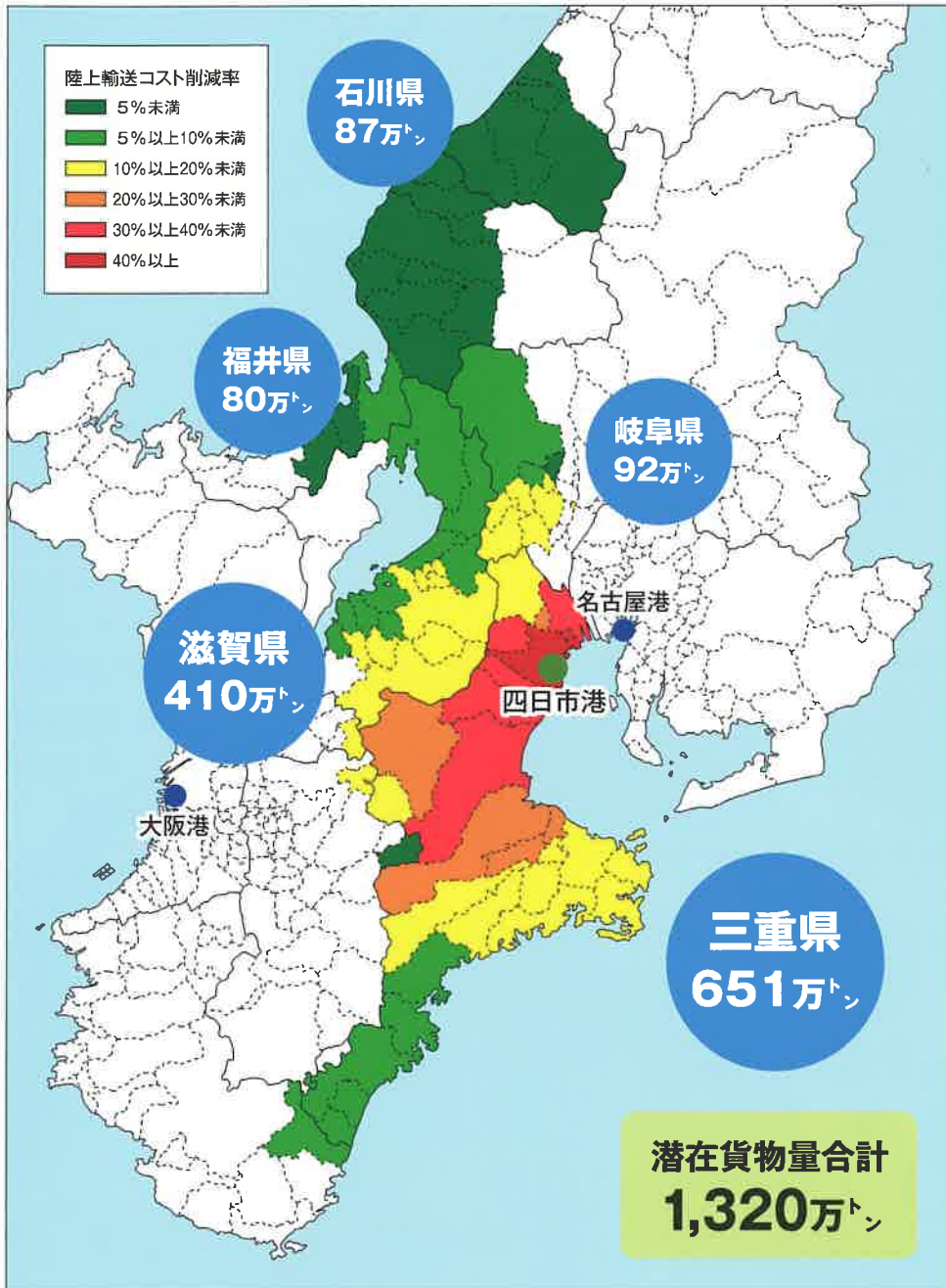
府 県	地 区	該当市町村
三重県	全地区	木曾岬町を除く全市町
滋賀県	湖東地区全域	近江八幡市、東近江市、湖南市、甲賀市、日野町、竜王町、愛荘町
	湖南湖西地区の大部分 彦根長浜地区の全域	草津市、守山市、栗東市、野洲市 彦根市、長浜市、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市
岐阜県	大垣地区の大部分	大垣市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町
	岐阜地区の一部	揖斐川町、大野町、池田町
福井県	福井地区の大部分	福井市、鯖江市、あわら市、坂井市、越前市、越前町、永平寺町、池田町、南越前町
	敦賀小浜地区の大半	敦賀市、美浜町、若狭町
石川県	石川県の一部	白山市、小松市、加賀市、能美市、野々市市、川北町
京都府	京都府の一部	南山城村
奈良県	天理地区の一部	山添村、御杖村

○四日市港利用優位圏は、三重県では木曾岬町を除く全域、滋賀県でも大津市・高島市を除く全域、岐阜県では大垣市周辺の地域となるほか、石川県や福井県などにも広がっています。

# 四日市港利用による陸上輸送コスト削減率と 四日市港利用優位圏における年間外貿コンテナ貨物量

四日市港利用優位圏において、他港(四日市港の次に陸上輸送コストが低くなる港)を利用した場合と比較して四日市港を利用することで達成される陸上輸送コストの削減率、および四日市港利用優位圏で生産・消費される年間外貿コンテナ貨物量の推計結果を表すと、下図のようになります。

■他港利用と比較した四日市港利用による陸上輸送コスト削減率と潜在貨物量



■四日市港利用優位圏における外貿コンテナの潜在貨物量

三重県	651万トン
滋賀県	410万トン
岐阜県	92万トン
福井県	80万トン
石川県	87万トン
<b>合計</b>	<b>1,320万トン</b>

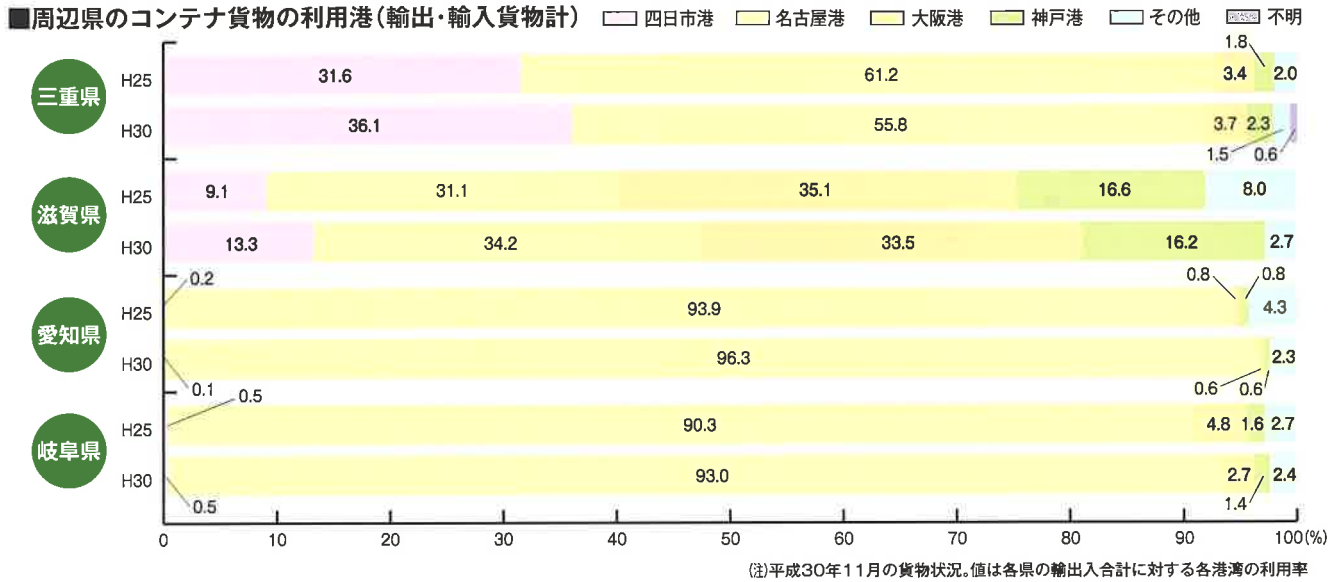
(注)平成30年11月時点の貨物量を基に、年間の貨物量を試算

※四日市港利用優位圏内で生産・消費される外貿コンテナ貨物は、全て四日市港で取扱えるわけではありませんが、陸上輸送コスト削減の観点からみれば四日市港の潜在的な貨物といえます。

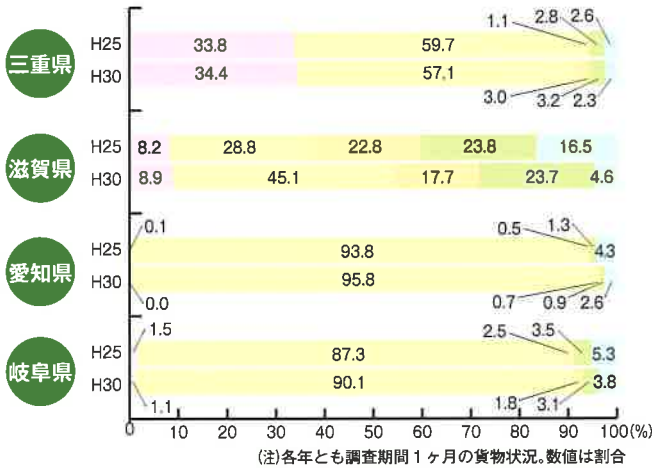
○四日市港利用優位圏における陸上輸送コスト削減率を詳細にみると、三重県は紀北町以北で10%以上、滋賀県では湖東地区の大部分が10~20%程度、湖南湖西地区では10%程度、彦根長浜地区は7~13%程度、岐阜県では大垣市周辺で10%程度となり、福井県の大部分と石川県で5%未満となります。

# 1 四日市港周辺県の外資コンテナ貨物の港別利用率

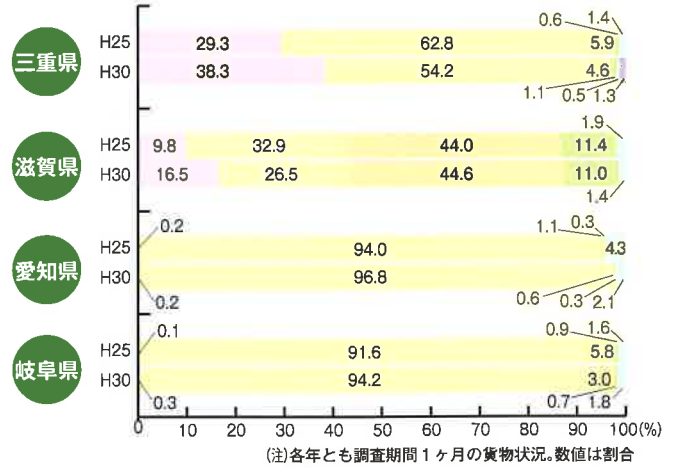
平成30年における三重県の外資コンテナ貨物の四日市港利用率を見ると、平成25年の31.6%から36.1%に上昇し、滋賀県でも平成25年の9.1%から13.3%に上昇しました。



## ■周辺県の輸出コンテナ貨物の利用港



## ■周辺県の輸入コンテナ貨物の利用港

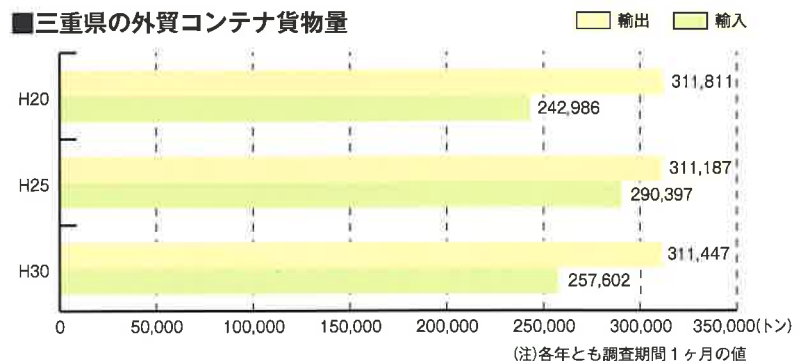


# 2 三重県の外資コンテナ貨物の状況

## (1)貨物量

平成30年における三重県の外資コンテナ貨物量をみると、輸出は約31.1万トと平成25年からほぼ横ばいとなりましたが、輸入では約25.8万トと平成25年から約3.3万ト減少しました。

## ■三重県の外資コンテナ貨物量



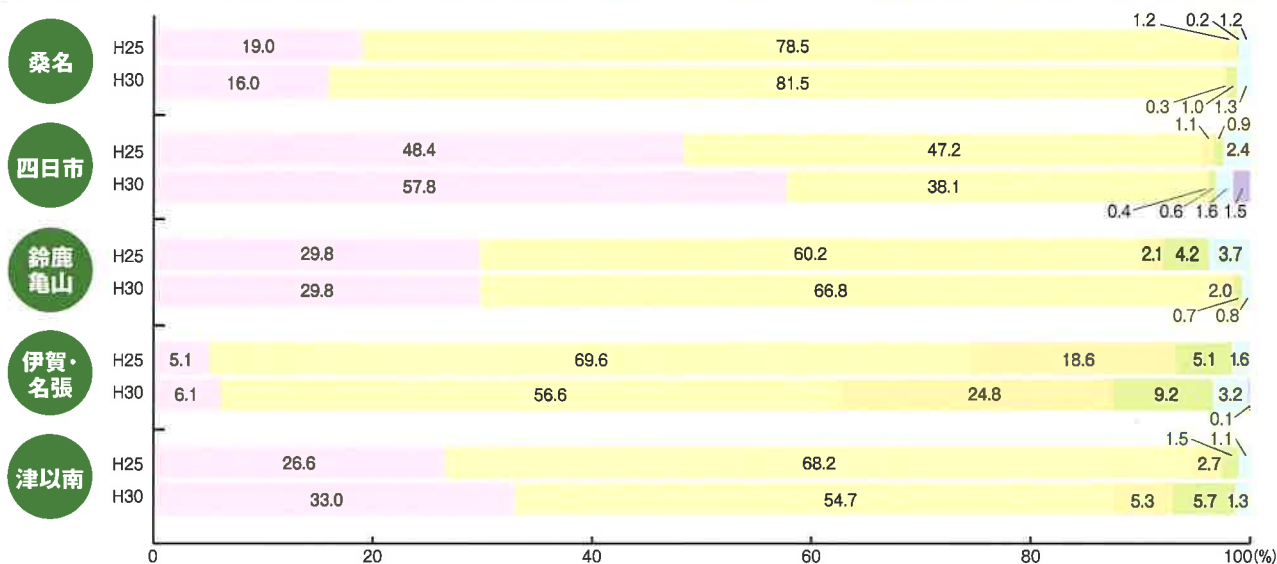
## (2)地区別の利用港

平成30年における三重県の外貿コンテナ貨物の四日市港利用率を地区別にみると、四日市地区では平成25年の48.4%から57.8%に上昇しました。また、津以南地区においても26.6%から33.0%と上昇しました。

一方、桑名地区では輸出貨物の利用率が大幅に低下した影響から、19.0%から16.0%に低下しました。

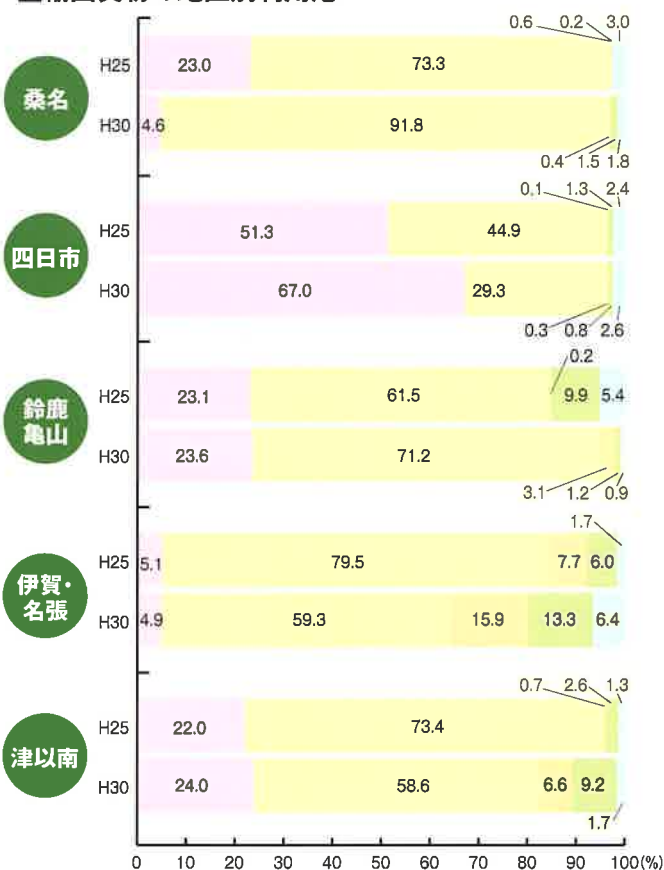
■地域別のコンテナ貨物利用港(輸出・輸入貨物計)

□ 四日市港 □ 名古屋港 □ 大阪港 □ 神戸港 □ その他 □ 不明



■輸出貨物の地区別利用港

■輸入貨物の地区別利用港



(注)各年とも調査期間1ヶ月の貨物状況。  
値は各地区の輸出货量に対する各港湾の利用率

(注)各年とも調査期間1ヶ月の貨物状況。  
値は各地区の輸入量に対する各港湾の利用率

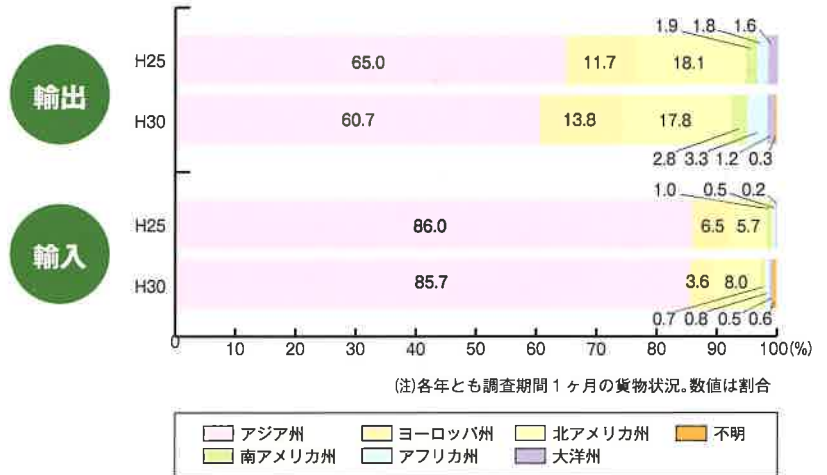
□ 四日市港 □ 名古屋港 □ 大阪港 □ 神戸港 □ その他 □ 不明

### (3)仕向・仕出地域別の貨物量の割合

平成30年における三重県の輸出コンテナ貨物の仕向地域をみると、貨物量の割合が高い順に①アジア州、②北アメリカ州、③ヨーロッパ州、④アフリカ州、⑤南アメリカ州、⑥大洋州となりました。一方、輸入コンテナ貨物の仕出地域は①アジア州、②北アメリカ州、③ヨーロッパ州、④アフリカ州、⑤南アメリカ州、⑥大洋州の順となりました。

輸出・輸入ともに最も割合が高いのはアジア州であり、輸出で約61%、輸入で約86%を占めています。

■仕向・仕出地域別の貨物量の割合



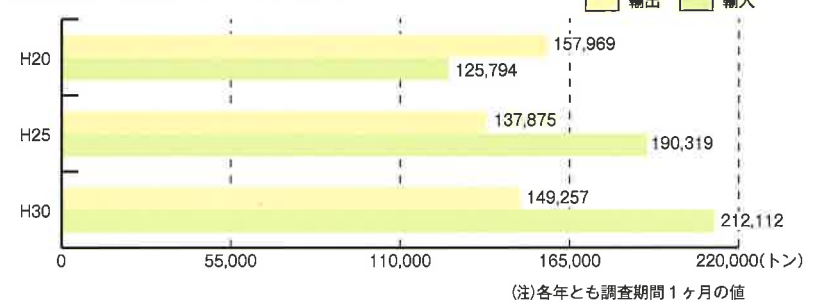
※仕向地域：輸出先の地域  
仕出地域：輸入元(原産)の地域

## 3 滋賀県の外貿コンテナ貨物の状況

### (1)貨物量

平成30年における滋賀県の外貿コンテナ貨物量をみると、輸出は約14.9万トンを平成25年から約1万トン増加しました。また、輸入についても約21.2万トンを平成25年から約2万トン増加しました。

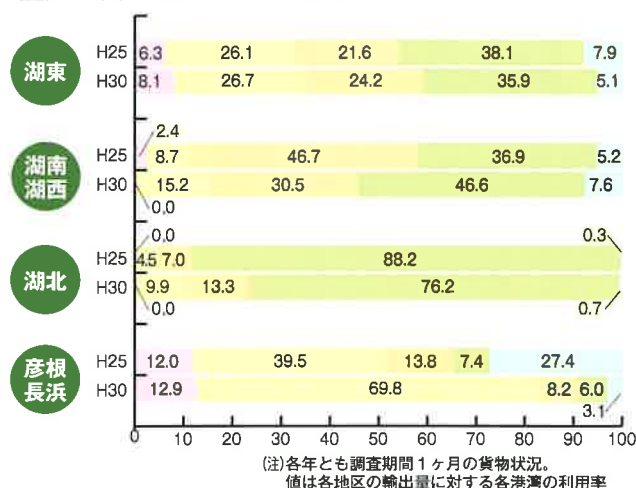
■滋賀県の外貿コンテナ貨物量



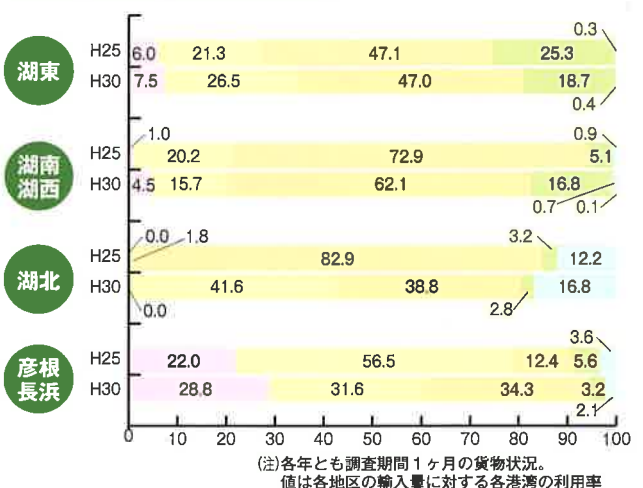
### (2)地区別の利用港湾

平成30年における滋賀県の外貿コンテナ貨物の四日市港利用率を地区別にみると、平成25年から輸出貨物で湖東地区や彦根長浜地区の利用率が上昇しました。また、輸入貨物でも湖東地区、彦根長浜地区ともに上昇しました。

■輸出貨物の地区別利用港



■輸入貨物の地区別利用港



四日市港 名古屋港 大阪港 神戸港 その他 不明

## 4 四日市港利用優位圏における外貿コンテナ貨物取扱状況

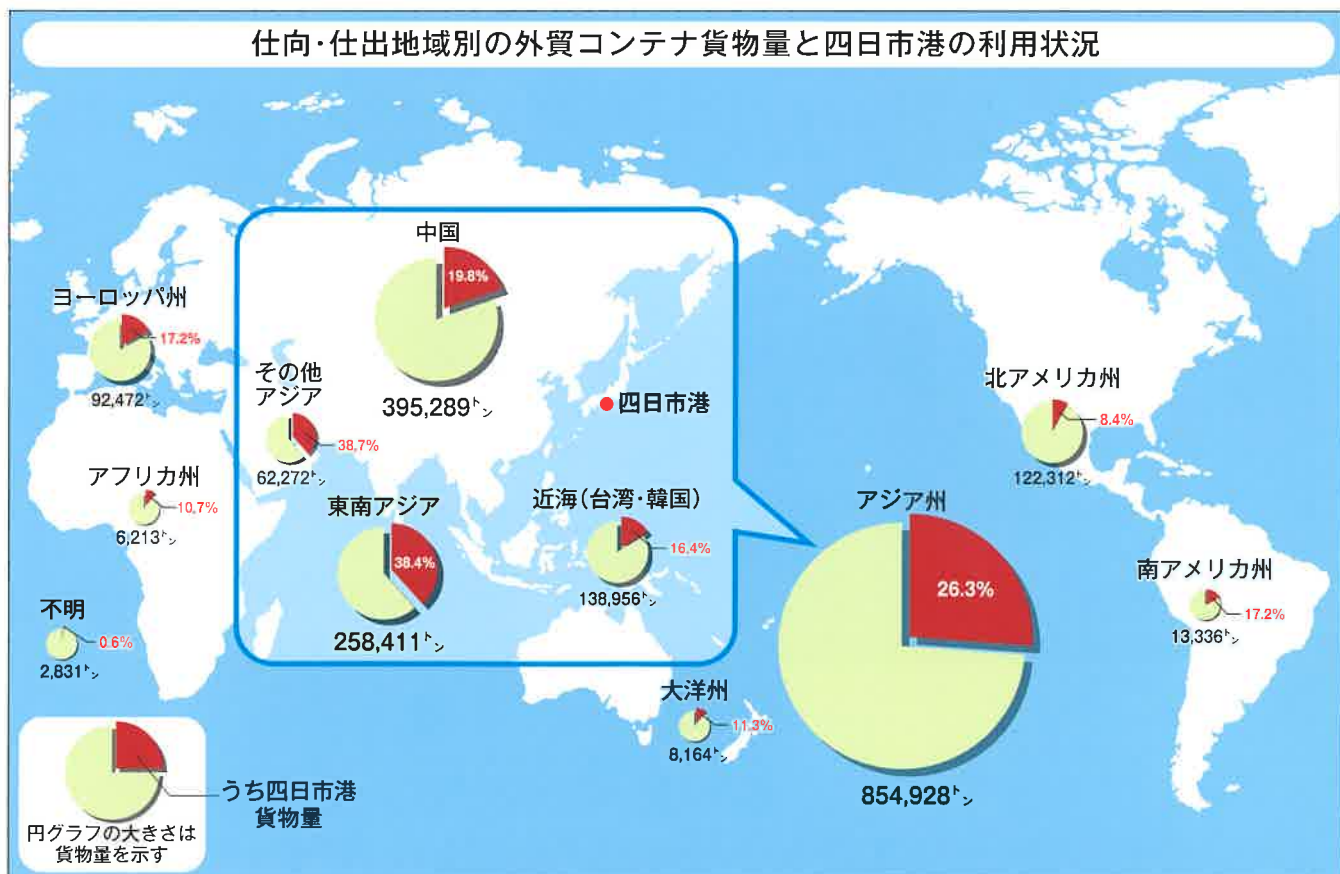
四日市港利用優位圏の外貿コンテナ貨物量と四日市港利用率を仕向・仕出地域(国)別にみると、以下の通りとなりました。

○貨物量については、アジア州が約85万トンを最も多くなりました。アジア州の中では、中国が最も多く約40万トンとなり、以下、多い順に東南アジア(約26万トン)、近海(韓国・台湾)(約14万トン)と続きます。

また、アジア州について貨物量が多いのは、北アメリカ州(約12万トン)となり、以下、ヨーロッパ州(約9.25万トン)、南アメリカ州(約1.33万トン)、大洋州(約0.82万トン)、アフリカ州(約0.62万トン)と続きます。

○四日市港利用率については最も貨物量が多いアジア州で26.3%となりました。アジア州の中では、中国が19.8%、近海(韓国・台湾)が16.4%、東南アジアで38.4%、その他アジアが38.7%となりました。

また、他地域の貨物の四日市港利用率をみると、北アメリカ州で8.4%、ヨーロッパ州で17.2%、南アメリカ州で17.2%などとなっています。



(注)調査期間1ヶ月の貨物状況。

国土交通省港湾局が平成30年11月の1ヶ月間において実施した「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を基に分析を行い、その結果を概要版としてまとめました。



空から見た四日市港(霞ヶ浦地区)



**四日市港管理組合**  
YOKKAICHI PORT AUTHORITY

企画課

TEL 059-327-7156 FAX 059-366-7048

〒510-0011 三重県四日市市霞2丁目1-1

[URL] <http://www.yokkaichi-port.or.jp>

[E-mail] [kikaku@yokkaichi-port.or.jp](mailto:kikaku@yokkaichi-port.or.jp)